

「自分の好きな野菜を育てよう」

三重大学教育学部附属小学校 今井 啓介

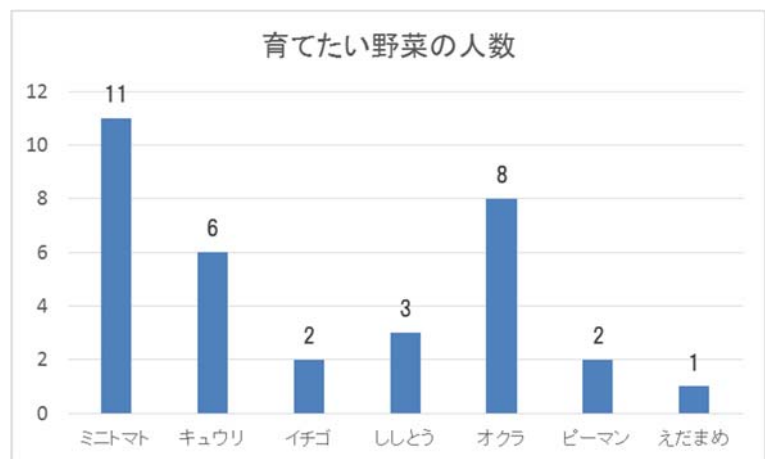
概要

第2学年「草花を育てよう」の単元において、いろいろな草花を育てていく中で、草花はどのようにそだっていくのか、どのようなつくりをしているのかということ、自分の好きな野菜を育てる中で考えながら学習を進めていく。さらに、本単元と関連させて、自然の素晴らしさを実感させることで、環境ということ身近な問題としてとらえることができるようになると思う。

授業実践

○ 自分の好きな野菜を育てよう

子どもたちに「夏野菜と言えばどんな野菜がありますか」と尋ね、夏野菜に興味・関心をもたせた。子どもたちは、自分の好きな野菜から食べたことはないけど知っている野菜まで、さまざまな野菜の名前を挙げていた。そこで、「育てたい野菜アンケート」を行い、夏野菜の中で、育ててみたい野菜は何か、どうしてその野菜を育てたいと思ったのかを書かせた。育てたい野菜は、図1の結果になった。子どもたちから出された夏野菜である。



この夏野菜を選んだ理由は、子ども一人ひとり違っており、「大好きな野菜だから。」「妹が好きだから。」「苦手な野菜だけど、自分で育てた野菜なら、食べられるかもしれないから。」など、さまざまなものがあった。

○ 苗を植え、観察を継続的に行っていく

子どもたちは、苗を植え、その後継続的に観察を行っていった。子どもたちは、1種類の野菜ではなく、7種類の野菜の苗があるために、自分の野菜と比べながら、観察を行うことができた。例えば、ミニトマトとナスの苗を比べると、茎の色が緑色と紫色ということに気づいたり、オクラとキュウリを比べて、キュウリはつるが伸びて、花の部分からキュウリができてくるということを発見したりする姿が見られた。

子どもたちは、一日も早く大きく育てほしいという願いから、毎日欠かさず水を上げたり、日のよく当たる場所へ植木鉢を移動させたりする姿が見られた。



○収穫をしよう

野菜は、子どもによって、収穫するタイミングが違うため、その都度、収穫させていった。子どもたちは、生活の時間や休み時間など、自分の育てた野菜を収穫していった。

【子どもたちの育てた野菜】



【ミニトマト】



【ピーマン】



【枝豆】



【ナス】



大好きななすびがこんなに大きくなったよ！僕の顔と同じくらいの大きさ。早く食べてみたいな。

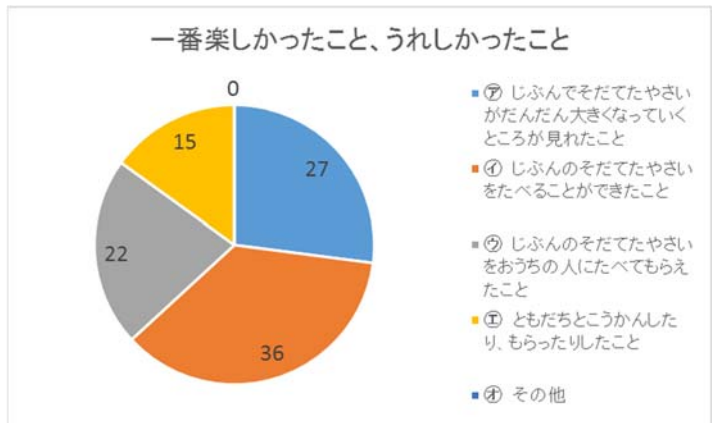


ししとうができたよ！しかも、こんなにたくさん！お母さん、喜ぶかな。

○ 夏野菜を育てた子どもたちの変化と感想

夏野菜を育てた後、子どもたちに今回の活動のふり返しとして、アンケートを実施した。その中で、「夏野菜を育ててみて、一番楽しかったこと・うれしかったことは何ですか?」という質問に対しての結果が図2である。このアンケートの結果から、子どもたちにとって、自分で野菜を育てていく中で、苗から少しずつ成長していく姿を観察していくことと大きく成長した野菜を自ら収穫し、

食するということが一番大きな喜びであるということが分かった。また、最初に野菜を選ぶ理由にも挙げられていた「家族が〇〇の野菜が好きだから、育ててみたい。」といったように、自分の育てた野菜を家族に食べてもらうことにも喜びを感じる子どもが多く見られた。



終わりに

今回の活動を通して、自分で野菜を育てて、収穫し、食するという一連の活動を行うことができた。子どもたちは、自分の夏野菜を育てることで、多くの喜びを感じる事ができた。さらに、子どもの中には、家でも今回の活動を通して、野菜を育ててみたいという思いをもち、様々な野菜にチャレンジする姿も見られた。

今回の活動の中で、子どもは自然の素晴らしさや面白さを感じ、身近に感じる事ができたと考える。今後、このような活動を子どもの発達段階に応じて取り入れていくことで、より環境を身近に感じる子どもが育っていくと考える。